



善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

73

「全長424km！  
北の南を駆け抜ける銀の轍」



文月 齊 (ふみつき さい)  
埼玉県出身。  
人と街、自然と文化を題材に、  
みちくさばかりの旅を続ける  
エッセイスト。  
函館、埼玉、大阪を拠点に  
旅を満喫中。

前略、変わりはないか？  
お彼岸も過ぎて、君の住む街もようやく秋らしい気候になってきたんじゃないかな。こちら函館は、坂の街路樹も色づいて、秋真っ只中って感じだよ。こんな季節は車に乗ってドライブに出るか、オートバイに跨ってツーリングにでも出かけるのが相場だけど、今年の僕は自転車ばかり乗っている。何かあったのかって？ そうなんだ。先月、函館を舞台にして3日間の自転車レースが行われてね、ほら、毎年7月にフランスで自転車の大きなレース「ツール・ド・フランス」が開催されているでしょ。あのレースの北海道版とでも言うべき「ツール・ド・北海道」が函館の町に来て、眠っていた自転車好きの血に火が着いちゃったってわけさ。

1日でレースが終わるワンデイレースではなく、複数日に渡って行われるステージレースとして日本で初めて開催された自転車レース「ツール・ド・北海道」も今年で開催31回目。毎年、北海道各地を会場に開催され、過去には函館の赤レンガ倉庫前や市役所前を自転車駆け抜けたこともあるけど、今年は大台史上初めて三日間の全日程が北海道の南の端、道南エリアで開催されたんだ。コース全長424km…といわれても今ひとつピンとこないけど、実際に自分が車でよく利用する道がコースになると、あの道を自転車走るのがか！と、大変さがリアルに伝わってくるね。とくに今回のコースは僕も実際に自転車走ったことのある道。あの道でタイムを競うなんて、想像しただけで足が痙攣しそうになるよ。

もともと、選手はみんな鍛え方が違うからね、僕が7時間かけて走った道のりをたったの2時間で走り抜けてしまうというから驚きだよ。今回のレースでも、例えば初日の函館から木古内町を経由して、江差町、厚沢部町を回って北斗市に戻る156・7kmのコースを、3時間半そこそこでゴールしたっていうから、驚きを通り越して呆れてしまう速さだね。

最終日にいたっては、函館山の山頂がゴールという大会史上初のコースが設定されたけど、これがまた70km以上走ったにもかかわらず、334mの山頂まで5〜6分で一気に登り切るといってもはや人間業ではないね。車で登ったってそんなに早く上がれないんじゃないかな。函館山の麓から一直線に上がってくる坂の上で観戦していたけど、あつという間に100台近い自転車が目の前を走り抜けて行った。カメラのファインダー越しに見ていたけど、シャッターを何度も押さないうちに通り過ぎて行ったよ。

開催前はそれほど話題にのぼることはなかった今回のツール・ド・北海道でけど、当日は大勢のギヤラーが沿道に集い大いに盛り上がった。毎年やって欲しいなんて声も上がって、函館の町に「自転車」という新たな観光スタイルの可能性が見えた気がしたね。実際、この大会を通じて北海道の魅力にハマり、愛車持参で北海道を度々訪れる旅人も少なくないそうなんだ。とくに昨年、北海道新幹線が開通したおかげで気軽に自転車を運べるようになったでしょ。今回のレースのコース周辺には、知る人ぞ知るいわゆるB級グルメが点在していてね、人気の定食屋さんや行列必至のお蕎麦屋さんをはじめ、はこだて和牛のハンバーガーや、ヤギのチーズを作るチーズ工房、30種の豆を取り揃える炭焼き珈琲店など、食べ歩きならぬ「食べ過ぎ」するのもいいんじゃないかな。え、私はサポーターカーで付いていく？ やはりそうきたか。馬より肥えない秋になるよう祈っているよ。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索